

科目名	付加価値を生む地域資源の保全とブランド化
担当者名	中村光良/安達義通

【科目の目的】

山梨の地域資源である「水」をテーマに、水循環や保全の実例を通じた理解とその資源を価値創造に繋げる取組を学び、自らが地域資源の価値創造を考えることでSDGs時代の地域創生人材の育成を目指す。なお、本講義の講師は、サントリーグループ（本社、白州工場を含む）の社員（課長クラス）を中心に行う。

【学士基盤力】：自然社会文化理解、実践力・問題解決力、自己学修力、地域・国際コミットメント力

【到達目標】

（知識・理解）

・サントリーグループの事例を学ぶことを通して、水循環・保全活動の取組・ブランドマーケティングについて理解することができる。

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

・サントリーの取組をベースに地域活性化に繋がる取組事例を自ら探求し、その学習成果として地域資源を活用した地域社会・経済の活性化を自ら考察し、提案することができる。

（態度・志向性）

・新たな価値を創造し、地域経済・社会の活性化を推進することの意義・重要性を体感できる。

【授業内容】

「地下水」から1本の「ミネラルウォーター」が生活者の手元に届くまでをビジネスシステムとして捉え、それぞれのプロセスにおいて、どのような取組が行われ、どのような価値が創造されるのかを理解する。本講義は、第3Qの6限に行う。（第3回～第5回は学習進度に応じて内容を調整します）

第1回（10/4 水）イントロダクション

第2回（10/11 水）水資源の基本理解：水循環とは

第3回（10/18 水）環境保全の取り組み①：サントリーグループの森林保全活動の実際と課題

第4回（10/25 水）環境保全の取り組み②：サントリーグループの水資源研究の実際と課題

第5回（11/1 水）ものづくりの理念と取組：サントリー白州工場の取組事例をもとに、「地下水」が「天然水」という製品になる過程を学ぶ

第6回（11/8 水）ブランドマーケティングと実際と価値訴求活動：サントリー天然水という「製品」がどのようにして価値を生む「ブランド」となりえたのか？コンセプトワークやブランド戦略の事例を学ぶ。

第7回（11/15 水）山梨の水の価値創造を自ら考える①：山梨の地下水の価値を地質学的アプローチから具体的に理解する

第8回（11/22 水）：山梨の水の価値創造を自ら考える②：自らがリーダーとしてこれをどのような付加価値のあるモノ・サービスに展開し、地域経済・社会の活性化に貢献するかを考える。

【教育方法】

- ・基本的には対面授業で実施します。
- ・毎回資料を配布します。
- ・パワーポイント等を使用し講義します。
- ・毎回質疑応答の時間は取ります。次回にその課題について議論することもあります。また質問票も配布します。以後の課題に取り上げるように進めます。

【実務経験のある教員による教育方法】

- ・第1回～第6回までは、サントリーグループでそれぞれの実務に精通した課長クラスが講義を行います。
- ・第7回～第8回は、興水客員教授とサントリー社員がファシリテーターとして、学生自らが考え、答えを出していただくセッションとなります。最終的に自らの提案を「水を活用した地域活性化提案書」としてまとめていただきます。（受講者人数次第でグループワークにする場合もあります）

⇒（今後検討）

優秀な提案書については、北杜市「水の山プロジェクト」等、実際活動をしている自治体へ提言する場を作り、自らが自治体首長に対して直接提案していただきたいと思います（現在調整中）。

<p>【評価方法】</p>
<p>(知識・理解) ・各講義における発言・議論の内容30%</p> <p>(思考・技能・実践) ・第7回～8回で策定する地域活性化提案書の内容:40%</p> <p>(態度・志向性) ・各講義における参加意欲:30%</p>
<p>【必携図書】</p>
<p>特になし</p>
<p>【参考図書】</p>
<p>適宜プリントなどを配布します</p>
<p>【履修上の注意】</p>
<p>・本科目は、18:10～19:40の時間帯に山梨県立大学飯田キャンパスで実施します。 ・最終的に自らが地域活性化リーダーとして提案をしていただくことになります。 したがって、単に講義で知識を学ぶだけでなく、日頃から地域課題や環境問題など情報のアンテナを張っていただきながら受講して下さい。 ・この講座は「答え」を教える講座ではありません。講師や受講生の皆さんとの議論を通じて、自分の考えをまとめていくスタイルで受講して下さい。</p>
<p>【履修者へのメッセージ】</p>
<p>・日本全体が超高齢化社会となる中、山梨も例外ではありません。またコロナやウクライナ問題など、グローバルレベルで今までの当たり前が当たり前でなくなってきています。 ・山梨には自然の豊かさを守るだけでなく、それを活かして人と自然が共生する社会を作ってきた歴史があります。時代が加速度的に変化する中、「21世紀の新たな山梨」を自らが考えるチャレンジを疑似体験したい方、歓迎します。</p>